

リンゴ褐斑病に対する各種殺菌剤の治療効果

福島県農業総合センター果樹研究所
平成17年度果樹試験場試験成績書
平成18年度農業総合センター試験成績概要

1 部門名

果樹 - リンゴ - 病害虫防除
分類コード 04-01-23000000

2 担当者

菅野英二・瀧田誠一郎

3 要旨

リンゴの重要病害である褐斑病について、2005年は各種殺菌剤の新梢葉における予防効果の持続期間を明らかにしたが、本年は、本病菌の感染後の散布における効果、つまり、治療効果について検討した。

- (1) 供試薬剤は、主に二次感染期に使用されるベンレート水和剤 3,000倍、トップジンM水和剤 1,500倍、ナリアWDG 2,000倍、ストロビードライフロアブル 2,000倍、フリントフロアブル25 2,000倍及びユニックス顆粒水和剤47 1,500倍とした。なお、フリントフロアブル25は2006年のみ供試した。
- (2) 接種は、2005年は分生孢子懸濁液の濃度を 1×10^4 個/mlとして接種1、2及び3日後に、2006年は濃度を 1×10^5 個/mlとして接種1、3及び5日後に各殺菌剤を散布し、その後の発病の有無を程度別に調査した。
- (3) 2005年は、ユニックス顆粒水和剤47の接種2日後散布を除いて、いずれの供試薬剤の散布日も防除価が90程度あり、効果は高かった。
- (4) 2006年は、接種1日後散布においてはユニックス顆粒水和剤47の効果が優れ、ベンレート水和剤及びトップジンM水和剤は効果が認められた。接種3日後散布ではユニックス顆粒水和剤47は効果がやや低いものの認められ、他の5剤は効果が認められなかった。接種5日後散布はいずれの薬剤も効果が認められなかった。
- (5) 以上のことから、ユニックス顆粒水和剤47は感染から3日以内の散布で治療効果が期待され、特に、1日以内の散布であれば高い効果が得られることが明らかになった。また、ベンレート水和剤及びトップジンM水和剤は1日以内の散布であれば、十分ではないが効果は期待できると考えられた。しかし、ナリアWDG、ストロビードライフロアブル及びフリントフロアブル25は効果があまりないと考えられた。

4 その他の資料等

なし